

新世代林業種苗を革新的に短期間で作出する技術

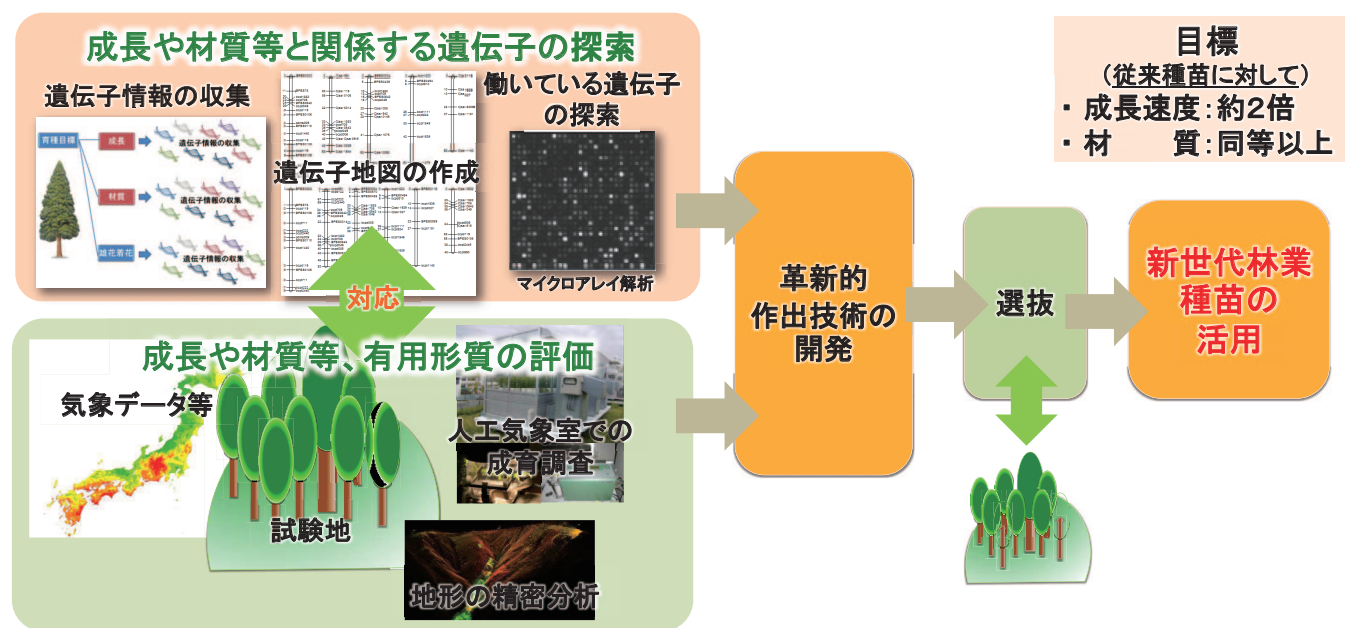
(独)森林総合研究所、佐賀県林業試験場
大分県農林水産研究指導センター、宮崎県林業技センター
鹿児島県森林総合技術センター、九州大学



震災復興対策に伴う木材需要の増加、伐採後の森林の早期再生による炭素吸収量の拡大が求められています。そこで、人工林の4割を占めるスギを対象とし、従来よりも格段に成長に優れた「新世代林業種苗」を短期間で作出する革新的な技術を開発します。

1 短期間で新世代林業種苗を作出できる革新的技術の開発

- 従来の方法では新たな林業用種苗の作出には30年以上の年月が必要でした。
→ DNA分析技術等の導入によって、成長速度が2倍の「新世代林業種苗」を、これまでの1/3以下の短い期間で作出する技術の開発を目指します。



2 優れた成長は炭素吸収量を向上させる



- 樹木の幹は50%が炭素(重量)です。成長に優れ、幹が大きいと炭素を吸収する能力も高まります。
→ 植林面積が同じでも炭素吸収量が向上します。
- 成長に優れると同じ面積でも収穫量が増えるうえ、下草刈りを減らせるなど林業経営で有利です。
→ 林業者の意欲が向上し、伐採跡地の植林が進みます。

☆ 森林の炭素吸収量の向上が期待できます。